

昭和の南海地震体験談

氏名:山本 マスエ(やまもと ますえ)
生年月日:大正12年2月14日
地震を体験した場所:日高町・自宅寝室
当時の家族状況:義母、夫、子



1) 地震発生時の状況

当時23歳で主婦だった。2階建て自宅の1階寝室で就寝中、揺れて目が覚めた。裏に住んでいた人が「地震やで！」と言ってきたので飛び起きた。

2) 津波襲来時の状況

揺れが収まってから、地震を知らせてくれた人が向かいのおばあさんに「津波くる！」と話しているのを聞き、夫に「お宮に逃げえ」と言われたので、着の身着のまま子供を抱いて先に家を出た。その時には、もう水が来ていた。神社までの途中の小さな川から波が吹き出てきて、膝まで水に浸かりながら、一生懸命に急いだ。とても恐かったことを覚えている。地震＝津波とは知らず、連想できなかった。神社の少し下の家の辺りは、ちょっと足が濡れる程度の水が来ていた。神社には数人の避難者がおり、神社近くに住んでいた人の好意で焚き火をしてもらい、みんなで暖を取った。夫が迎えに来てくれるまで待機していた。

3) 家族の行動・被害

夫は義母を背負い、神社に行こうと家を出たが、すでに川から水が溢れてきていて足が浸かった為、反対側の高台の家に身を置かせてもらった。その後、夫が神社に迎えに来て、一緒に高台の家に戻った。落ち着くまで避難させてもらい、家族全員が無事だった。自宅には午前8時頃に戻った。一部を店舗としていたが、店のガラス障子に土間上60～70cmの位置に潮の跡がついており、1階寝室の布団のふちも濡れていた。



4) 集落・周囲の被害

周辺が低い地盤の地域だった為、ほとんどが浸水した。幸い人的被害は無かった。地震による被害は無し。

5) 地震・津波後の生活

片付けながら自宅で生活した。食料は潮に浸り、ほとんど食べられなくなり、大変困った。さつま芋の芋洗いにまで潮が入り、蓄えていた物もダメになった。井戸も使えなくなったので、裏の家の後の井戸から綺麗な水をわけてもらっていた。元通りの生活に戻るまで時間がかかったと思うが、期間は覚えていない。

6) 次の災害への備え

避難訓練に参加している。地区で避難場所が決まっているが、家族の中では裏手の高い場所が一番早いのでは？等と話している。持ち出し袋に水、タオル、洗面具、カンパン、手袋、懐中電灯等を入れ、常備している。